

Ⅲ. 2027年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

柔道整復学学位プログラム 博士後期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	---

柔道整復学学位プログラム

（専攻・50音順）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 伊藤 譲 博士（医学）	研究分野：柔道整復学 研究内容のキーワード：運動器外傷、スポーツ外傷、運動器疾患の評価、予防とコンディショニング、柔道整復師養成教育 原則として、修士課程で行った研究を継続、発展させます。また、以下の様なテーマの研究を行います。 1. 運動器外傷学（閉鎖性運動器外傷に対する柔道整復術の評価等） ① コンディショニングと外傷発生との関連 ② 運動器の抗老化（アンチエイジング）を目指す運動プログラムの立案と指導法の確立 ③ 超音波観察装置を用いた運動器外傷の評価法の確立 2. 柔道整復教育学（柔道整復師教育の実践モデルの開発） ① 骨折および脱臼のシミュレーターを用いた教育手法と評価方法の確立 ② テキストマイニングによる柔道整復師像の明確化 ③ 卒後教育プログラムの開発と検証及び柔道整復師のキャリアアップ指標の作成 これまでに、また現在取り組んでいる研究テーマは以下の通りです。 ① 柔道整復師が養成施設卒業時に求められる能力－テキストマイニングによるディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの分析－ ② 柔道整復師を目指す学生の生活習慣が健康度に与える影響 ③ 肘関節外反ストレステストにおける負荷力の可視化が肘関節内側裂隙距離に及ぼす影響 ④ 徒手検査の教育手法の開発－肘関節外反ストレステストにおける負荷力フィードバックの有用性－ ⑤ 高校生の女性アスリートにおけるAIを活用した睡眠教育手法の開発 ⑥ AIアシスタリングの基礎医学教育への効果 ⑦ 柔道整復師養成施設学生のモチベーションの経時的変化
	★★ 教授 稲川 郁子 博士（教育学）

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 准教授 上倉 將太 博士(スポーツ健康科学)</p>	<p>研究分野：トレーニング科学、アスレティックリハビリテーション</p> <p>研究内容のキーワード：アスレティックリハビリテーション、運動療法、スポーツ理学療法、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング</p> <p>運動器の外傷・障害に対して、その疾病構造を理解し、臨床推論を基に病態を改善する運動療法とそれらの障害予防について研究する。</p> <p>1. スポーツ障害に対する治療選択について検討する。</p> <p>① 運動療法（Functional Ex.等）の効果を、パフォーマンスの変化を用いて検証する。</p> <p>② 運動療法と組み合わせる物理療法（ラジオ波等）の設定や時間の違いによる効果判定。</p> <p>③ 障害予防の為のPrevention Ex.と競技力向上との関係性について検討する。</p> <p>2. 健康増進領域での運動療法の活用を模索する。</p> <p>高齢者の場合は、介護予防を目的とした身体機能改善を目的とした調査を行い、若年者においては成長期の身体活動量と身体機能の関係性に着目して調査する。また、アスリートに対して、コンディションチェック方法の確立と積極的なリハビリ方法について、さらに障害予防プログラムの有効性について調査研究を行う。</p>
<p>★★★ 講師 小林 喜之 博士（医学）</p>	<p>研究分野：複合領域</p> <p>研究内容のキーワード：柔道整復学、外傷学、動作分析</p> <p>① 柔道整復領域における外傷や障害の病態の解明及び受傷機転の解析</p> <p>② 運動器外傷の後療法の形態・機能解剖に基づく治療効果の影響について</p> <p>③ 健康寿命の延長を目的とした柔道整復術によるアプローチ</p> <p>④ 競技パフォーマンス向上のための柔道整復術によるアプローチ</p>
<p>★★★ 教授 小山 浩司 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：柔道整復学、スポーツ医学</p> <p>研究内容のキーワード：超音波画像装置、運動器疾患、姿勢</p> <p>柔道整復術の有効性を科学的手法で検証し、エビデンスに基づいた施術アプローチの確立を目指します。超音波画像装置を活用して施術による身体の変化を可視化し、その効果を客観的に検証します。現在、主に以下の研究に取り組んでいます。</p> <p>① 柔道整復施術前後における組織変化の比較研究</p> <p>② 運動器疾患に対する予防的アプローチに関する研究</p>
<p>★★★ 教授 白石 聖 博士（医学）</p>	<p>研究分野：運動器測定評価学、衛生学公衆衛生学</p> <p>研究内容のキーワード：骨格筋循環、関節アライメント、スポーツ傷害、傷害予防、ヘルスプロモーション</p> <p>健康の保持・増進に資することを目的とし、加齢による運動器機能の低下や外傷や障害の発生に関する構造的・機能的要因について研究を行う。修士課程では臨床から生まれた研究課題など比較的広い範囲を対象として科学的な分析を行う。</p> <p>① 骨格筋循環と筋機能低下および外傷・障害発生に関する研究</p> <p>② 関節アライメントと運動機能低下および外傷・障害発生に関する研究</p> <p>③ 健康寿命延伸のための歩行能力の保持・向上に関する研究</p>
<p>★★★ 教授 橋本 俊彦 博士（医学）</p>	<p>研究分野：スポーツ医学、整形外科、運動学</p> <p>研究内容のキーワード：スポーツ外傷、要因分析、受傷機転の解析</p> <p>スポーツ外傷は、環境的要因、身体的要因、心理的背景などの発生要因が複合的に誘因となり、受傷時の身体部位に生じる衝撃によって病態が決定される。この一連の過程に関連する以下の項目を研究テーマとする。</p> <p>① スポーツ外傷の発生する要因分析</p> <p>② スポーツ外傷における受傷機転の解析</p> <p>③ スポーツ外傷の予防</p>

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 准教授 樋口 毅史 博士（医学）</p>	<p>研究分野：柔道整復術、パラスポーツ、障がいを持つ人のコンディショニングおよびトレーニング</p> <p>研究内容のキーワード：柔道整復、運動器外傷学、重心動揺、パラスポーツ</p> <p>① 柔道整復術が社会におよぼす影響について、施術方法、施術内容、施術料金等に関する検討</p> <p>② スポーツ現場における柔道整復師の役割・将来の可能性に関する検討。特に障がい者のスポーツに対する柔道整復師の役割について</p> <p>③ 運動器損傷・障害の対処とスポーツ医および他の医療関連職種との連携に関する検討</p> <p>④ 小児から高齢者に対する外傷予防に関する検討。特に動的重心動揺特性について基礎的な研究</p>
<p>★ 教授 松田 康宏 博士（工学）</p>	<p>研究分野：生体医工学</p> <p>研究内容のキーワード：血流計測、手技療法、物理療法</p> <p>柔道整復師が行う様々な施術によって筋血流が変化すると言われている。しかし、それらの研究は他の医学分野に対して立ち遅れ、科学的な根拠に基づいた評価方法がまだ確立されていない。そのことから、柔道整復師が行う徒手的に行う手技療法やストレッチング、医療機器を使用した物理療法などの治療法が筋肉血流にどのような影響を及ぼすのかを明らかにするための研究を進めていく。</p>
<p>★★★ 教授 渡邊 学 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：アスレティックリハビリテーション、トレーニング科学</p> <p>研究内容のキーワード：スポーツ外傷・障害、障害予防、身体の構造、アライメント、身体動作</p> <p>運動器の外傷と障害を研究テーマとする。</p> <p>多様化する対象者の病態を理解し人々を支援する専門領域として、障害予防におけるアライメント評価とトレーニング方法に関する領域を研究する。</p> <p>研究の実施は、身体の構造とアライメント、身体動作の3つを基盤とする考えを軸とし、臨床に直結した研究を進める。また、柔道整復師における高度な専門知識と臨床技能の知見を深め、臨床で生じる疑問に対して、その現象を解明することを研究課題として検討する。</p> <p>① 障害予防における運動療法の検討</p> <p>② 身体動作とアライメントを改善するためのトレーニング方法と評価法の検討</p>